

大阪を生きる 12人の物語 第4回

ホスト 高島幸次

ゲスト 春野恵子



「人」を通すことで見えてくる大阪の文化的魅力を探る対談連載『大阪を生きる12人の物語』。第四回のゲストは、上方浪曲界で活躍を繰り広げる春野恵子さん。ホストはお馴染み、歴史学者の高島幸次さんです。

さまざまなか縁や出会い

高島 恵子さんとの対談は、今日で二回目ですね。一回目は、水と光のまちづくりを推進する「大阪水都コンソーシアム」が、水都ならではの浪曲をつくってほしいというので、監修者の私から恵子さんをお願いしたときでした。つくっていただいた「水の都の大阪めぐり」は中之島の中央公会堂で初披露していただきましたけど、その後もやっていただいているんですか？

春野 先生がコーディネートをされている天満天神繁昌亭の「天神寄席」はもちろん、いろいろな場所で開催させていただいています。お客様のほとんどが大阪の方なんですけど、みなさん「知らないことがいっぱいありました」とおっしゃってくださいますし、とて

も喜んでいただける演目になっているんですよ。

高島 水の都とはいいながら、肝心の大阪人がその実態についてあまりわかっていない部分が多かったりしますからね。

ところで、今日はピアノをバックにお話をうかがっているんですが（81ページ参照）、ここはどんな場所なんでしょうか。

創作浪曲「水の都の大阪めぐり」(二部控)

水の都の大阪は
難波、天神、天満橋
公儀が架けたる三天橋
それに負けじと町人が
作り上げたる町橋は
八百八橋とたたえられ
皆に慕われ愛された
水の都の歴史を辿る
川と人との物語

浪曲／春野恵子
台本／米井敬人
監修／高島幸次

春野 大阪にある浪曲親友協会主催の「一心寺門前浪曲寄席」をさせていたでいる南会所という場所です。一心寺さんが運営する多目的ホールといった感じの施設ですね。**高島** それでピアノも置いてあるわけですか。

一心寺門前浪曲寄席は、どのくらいの頻度で開催しているんですか？

春野 月に一回、三日間の日程で行っています。寄席はもう何十年も続いていて、歴史が長い分、耳が肥えたお客さんばかりで緊張するんですけど、ディープなネタをかけられる、いい勉強の場になっています。

高島 南会所の前にある「一心寺シアター倶楽」で、僕は半年前に、山本能楽堂の山本章弘さんや能楽師・安田登さんの新作能「慈愛 魂のゆくえ」を見ました。**春野** 私は演劇の舞台に出させていたことがありません。つかこうへいさんが亡くなられたときに「つかこうへい追悼企画」ということで六作品が公演されたんですが、そのうちの「飛龍伝」の主役を務めさせていただいたんです。

高島 一心寺は平安時代末にできた由緒正しい寺院でありながら、文化的でユニークな取り組みをいろいろとされているお寺さんですね。さつき撮影させていただいた山門と仁王さんの像も、すごいでしょ（83ページ参照）。いまは長老になってはる前住職の高口恭行さんという方が有名な建築家でもあって、あの門をつくられたんですが、おそらくそのご縁で神戸峰男